

# 川崎競馬倶楽部

<http://www.kawasakikeiba.com>

since1990

〒212-0002 川崎市幸区小向仲野町15-4 川崎競馬倶楽部

2007年12月号

## ☆☆川崎馬が次々とタイトル制覇☆☆

### ハイセイコー記念 ~ヴァイタルシーズ~

11月28日 大井  
2歳 1600m

第40回ハイセイコー記念。好発からレースの主導権を握ったヴァイタルシーズ。直線迫る後続を余力十分な脚色で振り切ってゴールイン。鎌倉記念につづく重賞連覇となった。2着はコラボスフィータ。3着には一番人気のニックパニヤンが入線した。  
「もっと追えばもっと伸びたと思う。それくらい直線の脚は楽でした」とテン乗りの重責を成した酒井忍ジョッキー。評判馬や新興勢力を寄せ付けなかった内容は着差2馬身半以上の完勝。これで南関2歳の頂点に立ったかたちだ。

「小さい体でよく頑張った。馬体を増やしているように(プラス5キロ)一戦ごと心身共に成長が見えるね。元々器用な馬でレースが上手だが、自分の流れにもっていったことが勝因。すべてがうまくいった。現時点では1700mくらいまでがベストだがこの先も今日のようにもまれない競馬ができれば距離の壁は気にしていない。このあとは全日本2歳優駿を使って一息入れる。放



Photo by RORO

#### ヴァイタルシーズ

父カコーシーズ  
母グランジョワ(メジロライアン)  
牡2歳 鹿毛  
馬主 ● 松崎 努  
調教師 ● 武井 栄一  
騎手 ● 酒井 忍  
厩務員 ● 高松 良行  
生産者 ● 的場 牧場



牧へは出さずに厩舎で休養させる予定」と武井調教師。

これで6戦4勝。ソエに苦しんだ時期もあったが、乗り越えたことでガラッと変わったという。一度モマれた競

馬も経験。この時も怯むことはなかった。前走の鎌倉記念で4馬身差をつけた2着馬ノースダンディがその後、平和賞勝ち馬となったことを考えると重賞連覇はさらに価値が高い。

「これで堂々と全日本2歳優駿へ迎えることができるね」と武井調教師は言葉を重ねた。

「ほら普段もこんなにおとなしいんです」と高松厩務員。キャリア4年目にして昨年のピービートルネードでの東京ダービーや戸塚記念につづくヴァイタルシーズとの出会い。

「あまりの強さに驚いたくらいです。何も特別なことをしているつもりはありません。運がよかっただけだと思います」と相変わらず控えめに話す。「カイバ食いも良くなっていますね」というからヴァイタルシーズ自身の成長だけではない力を引き出す術を高松厩務員は秘めているのかもしれない。

そして次走は全日本2歳優駿。全国からやって来る敵を「ヴァイタルシーズらしい競馬で」地元代表として迎え撃つ。

### ロジータ記念

11月7日 川崎  
3歳牝 2100m



Photo by Mr.O

#### トキノミスオース

父オース  
母トキノナイスレディ  
牝3歳 鹿毛  
馬主 ● 田中 準市  
調教師 ● 長谷川 三郎  
騎手 ● 坂井 英光  
厩務員 ● 坂下 光弘  
生産者 ● 木村 二三夫

「こんなに感極まったことはない。とにかく勝ちたかった。ジョッキーには悔いを残さず乗ってくれと頼んだ。トキノコジローの時とはまた違う特別な感情で勝利を噛みしめている」というのはベテラン坂下厩務員。トキノミスオースの活躍を楽しみにしていた先代オーナーが今夏に亡くなりロジータ記念は弔い合戦のつもりで臨んだという。3コーナー先頭に立つと直線豪快に伸びて陣営悲願のタイトル制覇。中央未勝利からこれで2連勝。トキノミスオースの素質が開花した瞬間だった。

「攻め馬はひっかかるので長めの調整で仕上げている。馬場に行くまでが嫌がるからひと苦労あるが、カイバ食いも良くなって来たのは力をつけている証拠。母のトキノナイスレディもうちにいた縁のある馬。毛色こそ違いますが体型やきつい気性も母にそっくり。まだまだ力をつけてくる。次は古馬オープンに入ってどこまでやれるか。東京シンデレラマイルか報知オールスターCを予定している」と長谷川三郎調教師。17年ぶりのうれしい重賞勝ちとなった。



### ローレル賞

11月9日 川崎  
2歳牝 1600m



Photo by Mr.O

#### マダムルコント

父メジロライアン  
母フルーリール  
牝2歳 栗毛  
馬主 ● 栗山 正  
調教師 ● 田邊 陽一  
騎手 ● 町田 直樹  
厩務員 ● 深野 壘  
生産者 ● 新井 昭二

直線競り合う二頭の乙女。ゴールまであと僅かというところで町田騎手&マダムルコントが凄いゴール。2着にはコンマ1秒差でトミノプラネット。ホッカイドウからの転入緒戦を鮮やかにタイトルで飾った。「とにかく勝負強いですね」と重賞ハンター町田騎手の第一声。

「並んだら負けなと思っていた」と元ジョッキーの深野壘厩務員。「来た頃はカイバを食わなかったのでカロリー高めに工夫したことで馬体も良化してきた」とさらに上昇をアピールする。

「輸送熱が出たり調教試験までハードだったりしたのが体重減の影響だと思うが馬体を見るとそう細くは見えなかった。道営時代のレースを全部見たが一度差されたのを差し返したり勝負強さは折り紙付き。おかげで初重賞を勝たせてもらった。次はもちろん東京2歳優駿牝馬。元道営馬だから右回りは問題ないが内回りコースをうまく流れに乗ってくれれば」と田邊調教師。勢いに乗り重賞連覇を狙っている。



## 吉橋淳一厩舎が今開催から出走

11月1日付で開業した吉橋淳一厩舎が今開催からレース出走することになりました。初陣は本日第5レース。トラストエースを今野騎手鞍上で出走させます。  
吉橋淳一調教師は東京都出身の35歳。芝浦工大から下河辺牧場を経て川崎で厩務員(高月由厩舎→鈴木敏一厩舎)となり5年後には調教師補佐に合格。鈴木敏一調教師の元で補佐としての経験を5年積んだ今春に調教師に合格しました。いずれも一発合格といえますから優秀!

「一步一步確実に前進していける厩舎づくりを心がけたいですね。調教メニューなども型にとらわれずその馬に合った方法を見極めるように。攻めた方がいい馬もいれば攻めない方がいい馬もいますからね。そのために引き出しを増やす努力をしていきたい。鈴木(敏一)調教師のように騎手や厩務員など人を育てることに取り組めるのが理想ですね。まずは初勝利を狙います」と意気込みを語ってくれました。  
まずは7馬房。榎千恵子厩務員と二人三脚でスタートします。



## 中地雄一ジョッキーが初勝利

11月19日浦和競馬第7レースで待ちに待った初勝利を挙げた中地雄一ジョッキー。  
デビューは平成16年4月26日ですが調教中の負傷により16ヶ月の長期休養を余儀なくされ復帰したのは今夏のこと。初勝利への道は掛かること3年半。120勝目のことでした。



「最高にうれしかったですよ。惜しいレースも続いていましたし。道中前に2頭いる競馬でしたから無理かと思ったんですが直線の手応え良くて内から伸びてくれました」と、「勝つ喜び」を語ってくれました。  
「本当にうれしい。これからが本当のスタートだと思ってますます勝てるようにがんばります!」と張り切っています。

## 酒井忍ジョッキー武者修行へ



ハイセイコー記念ではテン乗りのヴァイタルシーズを見事勝利に導いた酒井忍騎手。自身にとってもううれしい1300勝達成となりました。  
酒井騎手は以前からシンガポールでの武者修行を希望。世界中からシンガポールでの騎乗希望者が多く願いが叶うまで時間がかかりましたがようやく申請が通り具体化。1月1日から3ヶ月間、クランジ競馬場を中心に騎乗することになりました。  
「三ヶ月南関東を留守にするわけだから、無駄なくみっちり勉強してきます! 芝もダートもありますし楽しみ。調教にも積極的に参加したいと思っています」と意気込みを語ります。  
常に成績上位である酒井騎手ですが「もっと腕を磨きたい」とさらなる高見を目指す真摯な姿勢には頭が下がります。  
出発は予定より早まり16日。17日からの川崎開催からしばらく留守になります。  
シンガポールでは元ホッカイドウの高岡秀行厩舎に所属します。

## 今野サントは今年もやって来た



今年の5月には松沢神奈川県知事より感謝状が贈られた今野忠成騎手。  
デビューから12年間かかさず自身の育った児童養護施設「聖園子供の家」に対して寄付を行い、総額は600万円に達したことによるものですが今年もまた今野サントは聖園子供の家にやって来ました。

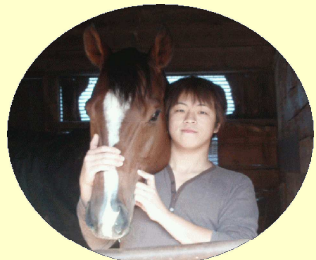
ここでは家族と一緒に暮らすことの出来ない事情のある子供たちが約150人暮らしていますが「自分がこうしてがんばり続けることが子供達に夢を与え、励みになってくれれば」と今野サント。



また、9月22日にJRAウインズ汐留で行われた「今野忠成騎手トークショー」では今野騎手の勝負服やステッキなどのチャリティーオークションも行われ、その売り上げ金のすべても一緒に寄付されました。

## HAPPY BIRTHDAY 12月生れ

|               |              |                |               |
|---------------|--------------|----------------|---------------|
| 青田正則厩務員(2日)   | 藤沢武志厩務員(2日)  | 梅山和則調教師(3日)    | 橋階信夫厩務員(3日)   |
| 今村友厩務員(4日)    | 扇光全厩務員(4日)   | 山崎裕也厩務員(5日)    | 佐々木仁調教師(9日)   |
| 吉村徹厩務員(11日)   | 吉田栄厩務員(12日)  | 古澤悟厩務員(14日)    | 水久保敏美厩務員(14日) |
| 渡邊幸樹厩務員(14日)  | 山田質厩務員(15日)  | 堀哲也厩務員(16日)    | 阿部吉則厩務員(18日)  |
| 世安智也厩務員(19日)  | 高月由次調教師(20日) | 久保ひろかず厩務員(24日) |               |
| 与那嶺盛光厩務員(28日) |              |                |               |



### 藤沢武志 厩務員 <河津裕昭厩舎>

「競馬は知らなかったけど、動物に携わる仕事があったから。」  
と言うのは藤沢武志厩務員。埼玉県春日部市出身の藤沢さんと馬との出会いは、中3の時。茨城にある祖父の家へ行ったのがきっかけだった。「元々高校に行くつもりもなく、いとこのお姉さんに買い物から成田の職安に連れて行かれました。」そこにあったサイトウ乗馬苑の求人票が馬の世界への出発点となった。

馬に触った事のなかった藤沢さんだが、そこで3年間みっちり乗馬の技術を学んだ。その練習が聞くだけでも凄まじい。「角馬場で長いロープを一本つけた裸馬に乗せられました。もちろん鞍や鎧なしで。それで一時間落ちなければ次の段階に進めるという感じでした。バランス感覚が養われましたね。」

一ヶ月くらいは厩舎作業とその訓練の繰り返し。一ヵ月後くらいには、「やっと落ちずに乗れて。」鞍をつけての訓練に進んだそう。乗馬苑にいた3年間では、競技会にも出場するほどになった。千葉県大会では成田市の代表にも選ばれ、優勝経験もある。「他の人がすごかったから。」と謙遜するが、スバルタ訓練の成果に違いない。

その乗馬苑で、いつも大会前に必ず教えに来る人がいた。その人から、「もしここを辞めることがあれば連絡してほしい」と言われ連絡したところ、「競走馬もやってみたらどうだ?」と河津厩舎を紹介されたのが18歳の9月。現在では厩務員生活も6年目に突入した。

乗馬から競馬の世界に変わったが、「担当する馬が決まっているから以前より楽ですね。休む時間もあるし。今は担当馬の世話と調教をつけています。」と涼しい顔で仕事をこなす。

担当しているのは、プレシャスとコスモビートアウト、マイネルワーズの3頭。  
「実は今年まだ0勝なんです。今まで未勝利の年はなかったんですけどね。4年目なんて1年間で10勝もしたんですよ。」

厩務員生活で一番思い出に残っているレースは、「イブクスナイパーでのホワイトクリスマス賞です。時計も早かったですし。」以前担当していたインヴァリッドが厩舎に戻って来たけれど、担当ではないのが少し残念そう。普段気を付けているのは、「あまり人間が入れ込み過ぎない事。スナイパーのときは入れ込んでいたけど、期待しない方が成績はよかったです。いつも通りがいいですね。」

ヘルニアを持っているそうだが、「ここに来てから仕事を休んだ事がないです。皆勤賞なんですよ。」と辛さを感じさせない爽やかな笑顔で答えてくれる。皆勤賞の秘訣は?と聞くと、「特に何もしていないけど、なるべく昼間は寝るようにしています。」

取材に行った12月2日は偶然にもバースデー当日。「今日は彼女がご飯を作ってくれるので、家でゆっくりします。」ととっても幸せそうな顔。趣味は、スノーボードやボディボード。時々マージャンをしたり、彼女と出掛けたりとプライベートも充実しているのは、穏やかな表情からもわかる。本業も、「叩いて変わってくれば。」というマイネルワーズを始め、まだまだ今年初勝利のチャンスはありますよね。

## アンパサンド帰厩

JDD2着以来休養中の東京ダービー馬アンパサンド。

ヒザがわずかに欠け剥離骨折していることが判明し8月初旬には手術が施されましたが11月7日帰厩しました。

11月の末からは速いタイムを出す調教を着々と積み重ね、復帰戦は東京大賞典を予定しています。  
フリオソ、トップサバトンと共ににぎわした三強の再対決もそう遠くないうちに実現されそうです。



## 馬頭観世音大祭が行われました

11月17日、小向厩舎では馬頭観世音大祭が行われました。馬頭観世音大祭はこの一年、傷病などによって亡くなった馬たちを供養し、現役馬の無事安全を祈願する厩舎の恒例行事です。

妙光寺住職の読経のあとには来賓や厩舎関係者による御焼香とつづく厳かな供養の場ですが、川崎競馬の厩舎では大祭として催し、厩舎の婦人会による屋台では手作りのモツ煮やおしるこなどが振舞われます。

